

DESIGNART TOKYO 2024

新たな視点で切り拓くジャンルレスな作品が東京に集結

世界屈指のミックスカルチャー都市、東京を舞台にデザイン、アート、インテリア、ファッションなどが多彩なプレゼンテーションを開催する日本最大級のデザイン&アートフェスティバル「DESIGNART TOKYO」。デザインとテクノロジーから生まれたアートの様な家具、アップサイクルでありながら美しいデザインと機能性を持つプロダクトなど、近年増えているジャンルレスな作品がさらに新たな視点で解釈された作品をはじめ、今年も多様なプレゼンテーションが展開されます。

注目のオフィシャルエキシビションは「Reframing」展 各分野のエキスパートによるキュレーション作品が集結

毎年時代の先を行くテーマを設け、注目を集めるDESIGNART TOKYOのオフィシャルエキシビション。2024年度のメインテーマ「Reframing ～転換のはじまり～」のもと、アート/デザイン/クラフト/テクノロジーのジャンルの異なるエキスパートがキュレーションした作品を展示します。日々たくさんの情報が行き交う中、既存の概念や思考に縛られ、無意識に本質や解釈に制限をかけている世の中に問いかけます。会場は青山通り（246）に面した全面ガラスのファサードを持つワールド北青山ビル1階。来場者に新たな気づきをもたらし、視点の広がりが生まれる鑑賞体験を提供します。



左上から時計回りに：金澤 韻、川合将人、立川裕大、青木竜太

ART ^{こだま} 金澤 韻 現代美術キュレーター / 株式会社コダマシーン アーティスティック・ディレクター

<http://kodamakanazawa.com/> <https://c-d-m.co/>
公立美術館での12年の勤務を経て、2013年独立。これまで国内外で多数の展覧会を企画。トピックとして、日本の近現代における文化帝国主義やグローバル化を扱い、時代・社会の変化とともに変容する認識や困難を捉えようとする活動を行ってきた。増井辰一郎とのユニット・コダマシーンでは商業案件を手掛け、アートや工芸と企業/自治体/人、そして展示場所を共鳴させるプロジェクトを行う。

DESIGN 川合将人 インテリアスタイリスト/スペースデザイナー

BUNDLESTUDIO Inc.代表 <https://bundlestudio.jp/>
都内のインテリアショップ勤務を経て独立。2000年からインテリアスタイリスト、スペースデザイナーとして活動開始。BRUTUSやCasa BRUTUS、ELLEDECOR、Penなどの雑誌でキャリアを積み、国内外のモデルルームやオフィス、店舗内装デザイン、コーディネートその他、スタイリングやディレクション業務をおこなう。2020年にBUNDLESTUDIO Inc.を設立。2022年建築家の進来廉が設計した個人邸を再生した<BUNDLE GALLERY>を千葉県野田市にオープン。デザインや芸術の分野を横断する独自のキュレーションによる展覧会を開催するなど、新たな文化発信の拠点として運営している。

CRAFT 立川裕大 伝統技術ディレクター

<https://www.ubushina.com/> <https://www.amuami.com/>
オーダーメイドの伝統工芸プロジェクト「ubushina」を立ち上げ、日本の伝統技術を先鋭的なインテリアに仕立てるというスタイルを確立。家具・照明器具・アートオブジェなどを一点物として製作してきた。日本各地の職人と長年にわたってものづくりの現場を共にし、2016年、伝統工芸の世界で革新的な試みをする個人団体に贈られる三井ゴールデン匠賞を受賞。2023年にはオートクチュールからプレタポルテへ。日本の技の粋を集めたプロダクトブランド「AMUAMI」をリリースし、日本の職人の仕事を世界に届けている。

TECHNOLOGY 青木竜太 芸術監督 / 社会彫刻家

<https://ryutaaki.jp/>
芸術と科学技術の中間領域で、研究開発やアートプロジェクト、展覧会などの企画・設計・指揮をしながら作家活動を行う。過去にはTEDxKidsプログラム、Art Hack Dayをそれぞれ日本で初開催を実現。2021年に千葉市初の芸術祭の一環で開催された「生態系へのジャックイン」展で芸術監督を務めた。主な作品展示に「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」や「2121年 Futures In-Sight」展がある。第25回文化庁メディア芸術祭で、アート部門ソーシャル・インパクト賞を受賞。

空間デザインを手掛けるのは「HYBE Design Team」

創業者の竹田純を代表に、新旧・時間軸を横断しながらハイブリットな視点で価値をデザインに落とし込み、クライアントから施工者、職人、アーティスト等をチームとしてプロジェクトの実現を進めるインテリアデザイン会社「HYBE Design Team」が本エキシビションの空間デザインを手掛けます。 <https://hybe.jp/>

HYBE design team

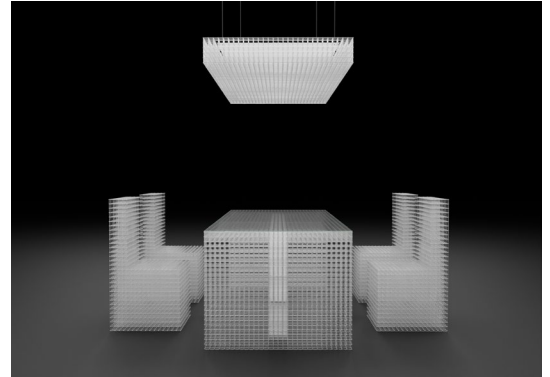
「Reframing」展 主催：DESIGNART TOKYO実行委員会（株式会社デザイナート） 助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】 会場：ワールド北青山ビル（東京都港区北青山3-5-10）

デザインとアートを横断する注目展示

130 (ワンサーティ) 革新的な立体構造技術による初の家具コレクション

The First 130 - 3Dプリントを超えた、棒状の素材による革新的な立体造形技術をコアにしたブランド「130(ワンサーティ)」は、特有の格子状の構造を飾ることなく縦横のラインだけで構成し、まるで空中から抽出されたかのようなプリミティブな形態のテーブル、椅子、照明の展示を行います。自由なデザインに対応し軽量かつ堅牢なこの構造技術は、使用後に分解、再素材化も可能。また、再構築時に新たなデザインや機能を付加することでアップサイクルされ、持続可能な未来を実現します。

会場：ISSEY MIYAKE GINZA / 442 東京都中央区銀座4-4-2
130： <https://www.130onethirty.com/>



PF Chair / PF Armchair by Masaya Kawamoto 唯一無二の色味を表現するアート作品の様な椅子

東京を拠点に活動するプロダクトデザイナー川本真也は、一般的に家具でよく使われる丸パイプの一部に「潰し」加工をし快適性を加えた椅子に、唯一無二の色味を表現することができる塩浴着色処理を用いて実験的な着色を行った、新作のオリジナルデザイン家具“PF Chair / PF Armchair”を発表。ステンレスの種類、板厚、冷却の速度により色柄の表情が異なり、アート作品の様に美しいこの椅子は、梱包効率を考慮した分解・組立可能な構造も特徴です。

会場：TIERS GALLERY 東京都渋谷区神宮前5-7-12
Masaya Kawamoto： <https://masayakawamoto.com/index.html>

LIONRUGS X KAORUKO ジャポニズムとペルシャ絨毯との融合

ペルシャ絨毯を専門とするギャラリーショップ「ライオンラグス青山」では、NYを拠点に活動する現代アーティストKAORUKOの作品を展示します。今回の為に制作した最新作や彼女の作品から制作されたペルシャ絨毯を初公開。KAORUKOの持つフェミニンなジャポニズムの世界と中東の國ペルシャの伝統工芸品ペルシャ絨毯との融合をお楽しみください。

LIONRUGS AOYAMA <https://lion-rugs.com/aoyama/>
会場：LIONRUGS AOYAMA 東京都港区南青山6-11-1 1F/2F

作品右【Girl】地球に生まれてきた少女は夢や理想に思いを馳せながらも、現実と直面し不安を抱えることもある。そんなときも少し角度を変えて空を見上げたら、そこには少女を見守る存在がある。約100x85 cm 金箔、銀箔、アクリル



Paola Lenti 「Hana-arashi 花嵐」 by nendo



HANA ARASHI 右_Armchair 左_Pouf

Paola Lentiが2022年に発表した「Mottainai」プロジェクトの第2章として、自社開発「Maris」ファブリックを使った最新コレクション「花嵐 Hana-arashi」を展示します。このプロジェクトため、国際的に有名なデザインスタジオであるnendoが招聘され、日本の「もったいない」という美德ある生産哲学により、廃棄処分されるはずの生産残材に機能と美的価値を回復させ、新たな命を吹き込み「花嵐」シリーズのファニチャーが完成しました。「花嵐」とは桜の花びらが風に舞う「第二の美」を意味し、軽やかさ、動き、色彩、そして驚きを生み出す自然の力を感じさせます。新たな資源の消費を最小限に抑え、最大限に再利用するというPaola Lentiの哲学を反映したコレクションです。

会場：Paola Lenti Tokyo 東京都港区麻布台3-5-5
Paola Lenti Japan： <https://www.paolalenti.jp>

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」 銀座メゾンエルメス フォーラム

銀座メゾンエルメス フォーラムでは、美術家の内藤礼による「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」を開催します。「地上に存在することは、それ自体、祝福であるのか」を、一貫した問いとして作家活動を続けてきた内藤は、光や影、水や大気のうつろいがもたらす生と死のあわいに、日々見過ごしがちなさやかな事物や情景、知覚しがたい密やかな現象を「根源的な生の光景」として、私たちの中に結び付けることで、深い体験をもたらします。東京国立博物館と共同で企画された本展は、9月23日まで開催される同名の展覧会と一連の流れを持ち、会期を一部重ね合わせながら、東京国立博物館から銀座メゾンエルメス フォーラムへ、再び東京国立博物館へと戻るひとつの大きな円環を描くかたちで構想されました。

開催期間：2024.9.7（土）～2025.1.13（月・祝）水曜休館

開館時間：12:00～19:00（入場18:30まで）

※開館時間が通常と異なります。ご注意ください。

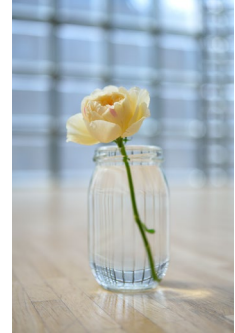
会場：銀座メゾンエルメス フォーラム 8・9階

銀座メゾンエルメス フォーラム：

<https://www.hermes.com/jp/ja/content/maison-ginza/forum/240907/>

東京国立博物館での開催（～9/23まで）に関する詳細：

https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2637&lang=ja



《無題》| 2024 | 花、水、ガラス瓶
PHOTO: 嵐山直哉



内藤礼 | 《母型》 2010年 豊島美術館 写真：森川昇



©DESIGNART TOKYO 2024

DESIGNART TOKYO 2024 開催概要

テーマ：「Reframing ～転換のはじまり～」

会 期：2024年10月18日（金）～10月27日（日）の10日間

エリア：表参道・外苑前・原宿・渋谷・六本木・広尾・銀座・東京

主催：DESIGNART TOKYO 実行委員会

発起人：青木昭夫（MIRU DESIGN）／川上シュン（artless）／小池博史（NON-GRID）／永田宙郷（TIMELESS）／アストリッド・クライン（Klein Dytham architecture）／マーク・ダイサム（Klein Dytham architecture）

オフィシャルウェブサイト：<https://designart.jp/designarttokyo2024/>

DESIGNART TOKYO 実行委員会

107- 0062 東京都港区南青山 2-15-19 フジハイツ402

info@designart.jp <http://designart.jp>

イベントに関するお問合せ

2024exhibitors@designart.jp

取材・掲載のお問い合わせ

担当 小高妃登美 press@designart.jp

 [instagram.com/DESIGNART_TOKYO](https://www.instagram.com/DESIGNART_TOKYO)

 twitter.com/DESIGNART_TOKYO

 [facebook.com/designart.jp](https://www.facebook.com/designart.jp)